講座番号 文学

024 短歌創作の実際
【旅行詠の研究】

講座内容

人間が生きてうたう歌でありたい。たとえ拙くとも、生きてかがやく歌を求めたいと思います。そのための基礎は、良い歌を充分に読み味わうこと。本講座では、テーマ別に秀歌名歌を読み味わい、語彙、語法を学びつつ、実作に生かしていきます。今回は、難しい素材の一つ旅行詠の歌い方を研究します。国内国外、珍しい土地に行けば歌の一つも作りたくなりますが、たいがい観光案内を出ないような歌になりがちです。先人はどんな歌を作ったのか、その詩の深みを味わいつつ、実作の参考にしてみましょう。希望者は毎回実作レポートや鑑賞文を提出することができます。

期　間	5月11日～7月13日	受講料	7,500円
曜　日	月曜日	定　員	20名　※最少催行人数9名
時　間	13:30～15:00	会　場	関内アカデミック・リサーチセンター
回　数	全3回	持ち物	筆記用具、辞書、原稿用紙等
教　材	講師が配布資料を用意します。		
備　考	●この講座は5月1日(金)までに中止の連絡がなければ開催となります。		

講座スケジュール

回数	日　程	内　　容
1	5月11日（月）	**旅行詠の研究①** 斎藤茂吉がヨーロッパ留学時代に旅行したローマの歌を読みます。実作ワンポイント
2	6月15日（月）	**旅行詠の研究②** 北原白秋が昭和十年に旅行した慶州の歌を読みます。実作ワンポイント
3	7月13日（月）	**旅行詠の研究③** 与謝野晶子が昭和五年に旅行した霧嶋の歌を読みます。実作ワンポイント

講師紹介

阿木津 英(あきつ えい)

現代歌人協会会員　日本文藝家協会会員

一九七四年作歌を始める。第二波フェミニズム興隆の時代を共に歩いてきた。「産むならば世界を産めよものの芽の湧き立つ森のさみどりのなか」(第一歌集『紫木蓮まで・風舌』)。以後、日本語をもってつくる歌という韻文形式の森に分け入って久しい。歌集『天の鴉片』『黄鳥』ほか。評論集『二十一世紀短歌と女の歌』『アララギの釋迢空』ほか。